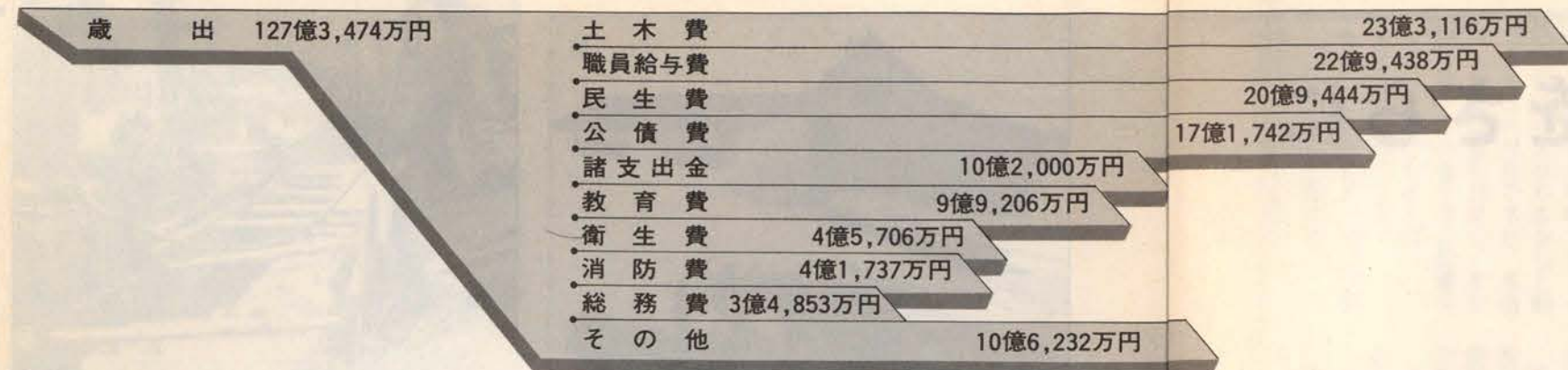


平成2年度会計別予算額 ※1万円未満四捨五入

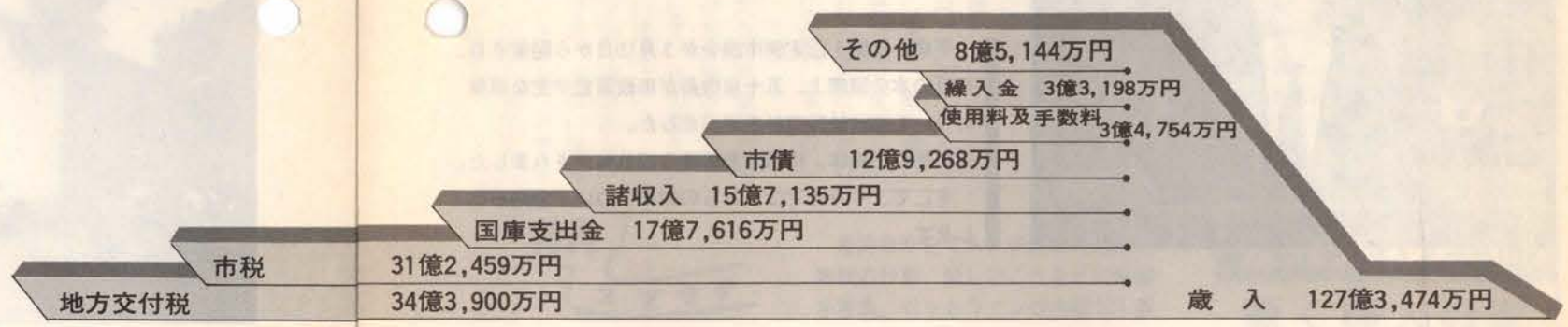
区	予 算 額
一 般 会 計	127億3,474万円
特 別 会 計	
国民健康保険事業会計	17億9,466万円
老人保健事業会計	20億6,722万円
港湾事業会計	1億2,197万円
市場事業会計	1,550万円
下水道事業会計	14億6,009万円
観光施設事業会計	4,137万円
駐車場事業会計	394万円
総 計	182億3,949万円



市民1人当たり(380,346円)の歳出

※一般会計歳出予算額(127億3,474万円)を人口(33,482人、3月1日現在)で割ったものです。

土木費	69,624円	民生費	62,554円	教育費	29,630円
衛生費	13,651円	消防費	12,466円	総務費	10,409円
災害復旧費	9,747円	商工費	8,806円	その他	163,459円



会提案分43億1286万円を含む)となりました。これは、前年度当初予算と比較すると一般会計で5・4パーセント、特別会計で7・5パーセントの増となっています。続いて、主要施策の概要をお知らせします。

黄金岬周辺を整備します

産業の育成と経済の振興

従来からの重要施策として、港湾機能の整備と利用の拡大に努めてきました。本年度も、西防波堤改良、三泊地区外周護岸工事の促進にあわせ、古丹浜航路泊地浚渫、南岸地区物揚場、塩見地区緑地整備事業を進めるとともに、留萌港の利用拡大のための積極的なポートセールスに取り組む、対岸貿易の促進、背後圏の流通拠点港としての機能の創出に努めます。

農業の振興については、農業を取りまく環境は依然として厳しいものがあります。生産性の高い農業を展開していくため、モミガラ暗渠排水事業、農道整備事業などを引き続き実施し、さらに、生産基盤の整備や土づくりを促進し、転作に伴う農産物の価格、需給安定をはかるとともに、販売ルートの拡大に努め、複合経営の一環として、肉牛の導入を検討します。

水産業の振興については、水産業をめぐる内外の厳しい情勢の中で、活性化の方向は沿岸漁場の開発と栽培漁業の促進をはかることです。このため、引き続き大規模増殖造成事業やウニ、アワビなど有用魚種の種苗放流事業などを実施するほか、ヒラメの養殖実験事業を昨年度に引き続き行い、資源の維持増大と企業化に向けて努力していきます。さらには、礼受漁港の改修事業を引き続き実施するとともに、三泊漁港の局部改良事業としての島堤の設置に着手します。

生活道路の整備については、本年度も引き続き重要施策として臨時地方道整備事業による改良工事をはじめ、住之江四号通り、住之江七号通りや東雲通りの改良事業、さらに停車場線、カモイワ・マサリベツ線の道路昇格のための調査実施を行い、あわせて都市計画街路などの整備促進に一層の努力をし、安全な道路網環境の整備を推進します。

観光については、尤は地域経済振興の大きな柱です。本市の恵まれた自然環境を最大限に生かし一層その振興をはかっています。これからの観光・レクリエーションは、余暇時間の増大や交通条件の向上により地域間の交流が盛んになり、需要拡大が予想されます。また、最近の観光客のニーズは「見る観光」から「体験する観光」へ「創り出す観光」へと変化し、その希求に応えるべく美しい留萌の海を最大限に生かした、より気軽により快適で安全な海辺の総合保養地の創出をはかるため、「留萌海岸コースタル・コミュニティゾーン整備計画」を官民一体となって強力に推進し、あわせて海洋開発の拠点として形成します。

さらに、市街地における都市機能の充実のため、市民の理解と協力を得ながら地区更新再開事業に着手し、商業地区の近代化を進めます。

本年度においては、海浜観光の拠点として黄金岬周辺の整備、キャンプ場、駐車場の造成、さらには「ふるさと創生事業」の一環として市民のアイデアによるライトアップ事業、岩場整備事業を行い、観光客の誘致拡大に努めます。

高砂公園整備事業が始まります

生活環境基盤の整備と快適な都市機能の充実

潤いのある生活環境づくりと活気あるまちづくりを推進するため、都市基盤の整備に努力してまいります。生活に欠かせない幹線道路、

また、高砂公園整備事業に着手するとともに、美園公園、港北公園の整備など各種公園の整備を引き続き行い、河川景観アメニティをはかるための河畔整備事業も実施します。

緑化事業については、本年五月に浜中運動公園内において北海道植樹祭が行われますが、これを契機にさらに緑化に対する市民運動の輪を広め、環境保全についても、市民の意識を高めてまいりたいと考えております。